

陸上自衛隊西部方面隊との連携による沖縄県への広域応援訓練について

【訓練概要】

美ら島レスキュー2018に合わせて訓練を実施（琉球海溝を震源とするM9.0の地震・津波が発生と想定）

日 程：平成30年7月17日（火）～19日（木）

場 所：沖縄県庁（沖縄県災害対策本部、現地応援事務所）、陸上自衛隊那覇駐屯地内体育館（現地指揮所）

参加者：120機関756名参加（訓練全体） ※九州地方知事会は、昨年度に続いて2度目の参加

【実施内容】

①自衛隊との協定に基づく輸送訓練

- 知事会からの要請に基づき、自衛隊が輸送機で職員（14名）を福岡空港から那覇空港まで輸送



自衛隊機によるリエゾン輸送

②現地応援事務所における活動訓練

- 沖縄県庁内に、パソコン等資機材を持込んで現地応援事務所を設置、カウンターパートの原案を作成



現地応援事務所（沖縄県庁内）における情報収集

③沖縄県災害対策本部との連携訓練

- 沖縄県災害対策本部に、知事会職員を派遣して沖縄県職員と合同で応援に必要な情報を収集



沖縄県災害対策本部内の様子

【訓練における気づき】

- カウンターパート作成にあたって考慮する要素について、あらかじめ整理が必要
- 応援職員が地図上で被災市町村の位置等を把握するため、地図に緯度・経度を入れるなどの工夫が必要
- 総務省、消防庁との具体的な調整内容について、次回の訓練に向け議論が必要

【今後の取組】

- 今回、総務省、消防庁及び九州市長会（鹿児島市、福岡市）も参加して、広域応援の訓練を行う予定であったが、平成30年7月豪雨災害の対応のため参加できなかったことから、来年度、これら関係機関とも調整を行い、引き続き訓練を実施